

■鉄鋼標準化センター

活動報告

1. 2月度トピックス

(1) 国際標準化関係

1. ISO/TC67「石油及び天然ガス工業用材料と装置」の総会の日本会催
第12回ISO/TC67総会(ロンドン、1992年開催)
において1994年開催予定の第14回総会の日本
引受につき要請があった。鉄鋼標準化センタ
ー運営委員会において、石油関連業界の協力
のもとに実施することで準備に入ることを承
認。

現在工業技術院と共同で、石油公団、石油連
盟、石油鉱業連盟に事情の説明を行い、先方
での検討を要請中。

2. JISC/ISO部会(2月22日)

1) IAF(International Accreditation Forum)発足

認定機関レベルでの国際的な相互認証体制
の構築のため、アメリカ、カナダ、イギリ
ス、オランダ、オーストラリア/ニュージー
ランド、日本(経団連)等7カ国の認定機関代
表者が集まり標記フォーラムの発足を決議
した。

2) T. B. (Technical Board) 会議対処方針
ISO9000シリーズ規格に関係し、主管TCで
あるTC176と他のTCとの関係(日本は通常
のリエイゾンで充分とする)等3) ISO/DIS回答状況報告の中で以下2件の鉄
鋼関係の報告があった。

DIS6931/1 ばね用ステンレス鋼線 条件
付反対

DIS 11484 圧力用鋼管-NDT(作業者の
認定) 賛成

3. ISO/TC17の1992年活動結果総括

規格発行件数14件と活動はなお活発。参加国
は61カ国と昨年並。

(2) 国内標準化関係

(1) 平成5年度鉄鋼JIS業務計画

2月5日開催のJISC鉄鋼部会において鉄鋼JIS
制定・改正案の業務計画が発表された。制定
8件、改正35件、廃止4件、確認121件となっ
ており、改正35件中18件の改正原案は鉄鋼協
会で作成した。

(2) 鉄鋼標準化推進中長期計画

2月15日開催の鉄鋼標準化センター運営委員
会で、平成4年度を初年度とする中長期計画が
議決された。

(3) 海外のJISマーク表示承認状況

鉄鋼部門におけるJIS指定商品件数は47で、海
外のJISマーク表示件数は2月末現在80件とな
っており、韓国が64件を占めているほか、台
湾・タイ各3件、アメリカ・インドネシア各2
件、カタール・シンガポール・ルクセンブル
グ各1件となっている。

(4) 平成4年度JIS見直し答申について

鉄鋼JIS見直し48件中、鋼材は39件中15件の改
正原案を、分析は、9件中8件の改正原案の作

成を完了、工業技術院へ提出する答申案を準
備中。

2. TC17幹事国業務

1. DIS改訂が中央事務局へ返却されたもの：
4件

DIS 10322(SC19)継目無及び溶接鋼管-水圧
試験代替用超音波試験(01-28)

DIS 10543(SC19)継目無及び熱間仕上溶接鋼
管-全周超音波厚み試験(01-28)

DIS 11496(SC19)継目無及び溶接鋼管-管端
の超音波探傷試験(01-28)

DIS 9302(SC19)継目無及び溶接鋼管-水圧試
験代替用磁粉探傷試験(01-28)

2. 規格発行についてSC議長の決定がなされた
もの：3件

DIS 683-18(SC4)耐熱鋼-磨鋼(01-29)

DIS 11692(SC4)熱間析出硬化型フェライト・
パーライト鋼(01-29)

DIS 4955(SC4)耐熱鋼(01-29)

3. 新作業項目が登録されたもの：2件

WI 13520(SC11)オーステナイト系鋳鋼のフェ
ライト量定量(02-03)

W1 13521(SC11)オーステナイト系Mn鋳鋼
(02-03)

4. 会員資格

・資格を中断された会員(内○印はTC17の会員)
○イラン、○北朝鮮、○コロンビア、○アル
ジェリア、○バングラディッシュ、○モンゴリア、
○ウルグアイ

・資格を停止された会員(内○印はTC17の会員)
○ガーナ、○イラク

5. ISO/TC17/EC(Executive committee)会
議準備状況

1) 日時：1993年6月9日(水)～10日(木) 2日間

2) 場所：パリ、フランス

3) 参加予定者：日、米、英、仏、独、伊、ス
ウェーデン、ノルウェーの8か国および中央事
務局で15名程度を予想。

4) 議題案：西欧・北欧・米国8か国と中央事
務局を訪問し、意見交換を行って作成。

①規格作成の生産性に関する現状分析と向上
策

②ISO/TC17の運営方針(特に規格の体系的整
理による将来作業項目の明確化と見直し改
訂作業の改善提案)

③製品規格作成ガイド(案)

④ISO/TC17総会とISO/TC17/EC会議の頻
度と時期

⑤ISO9000シリーズの鉄鋼ガイド

3. TC17/SC1幹事国業務

1. 承認段階(Stage4)：

(1)DIS 10702(N-蒸留滴定法)；ISOゲラ刷り
を中央事務局にて準備中。

(2)DIS 10698(Sb-無炭原子吸光法)；DIS投
票中。締切1993-05-19

(3)DIS 10697-2(Ca-原子吸光法)；DIS投票
中。締切1993-04-29

(4)DIS 10700(Mn-原子吸光法)；DIS投票

中。締切1993-06-30

(5)DIS 10701(S-吸光光度法)；DIS投票中。

締切1993-06-30

2. 委員会段階(Stage 3)：

(1)CD 10278(Mn-ブラズマ)；コンビナーが
最終CD作成中。

(2)CD 10719(GC-燃焼性赤外線吸収法)；コ
ンビナーが最終CD作成中。

(3)CD 10720(N-融解熱伝導率法)；再予備実
験準備中。

(4)CD 439(Si-重量法)；DIS投票開始(02-
11)。締切1993-08-11

(5)CD 11652(Co-原子吸光法)；再共同実験
中。締切1993-05-30

(6)CD 11653(Co-電位差滴定法)；再共同実
験準備中。

(7)CD 4941(Mo-吸光光度法)；CD投票中。締
切1993-03-31

(8)WG 35(微量B-ICP法)；共同実験用WD
回付し、コメント締切(01-31)

(9)WG 36(高S-HFIR法)；共同実験用WD回
付し、コメント締切(01-31)

(10)Ad hoc group 14-1(微量C)；共研「鋼中微
量炭素定量法研究小委員会」結果待ち。

(11)Ad hoc group 14-2(XRF-基準法)；共同
実験準備中。

4. TC67/SC5幹事国業務

1. ツールジョイント付ドリルパイプの取扱い。
TC67/SC5/WG1 Convenerに対し、本件の取
扱いについて、Mr Tretler(TC67 Secretary)
との打合せ結果として下記を連絡。

(1)TC67/SC4はTC67/SC5の要望事項を5月
の会議にて討議の予定

(2)TC67/SC5/WG1は3月の会議にて既定方
針通り作業を進める。

(3)上記結果はTC67/SC4へ連絡する。

2. TC67/SC5のWG2(継手性能試験方法)と
WG3(耐食性油井管)への参加メンバーの集計
を実施、P-及びO-メンバーに連絡。

WG2：アルゼンチン、オーストリア、フラン
ス、ドイツ、イタリア、日本、オランダ、ノ
ルウェー、ポーランド、英国、米国の11カ国
(コンビナーはドイツ)

WG3：オーストリア、ブラジル、フランス、
ドイツ、イタリア、日本、オランダ、ポーラ
ンド、ルーマニア、英国、米国の11カ国(コ
ンビナーはイタリア)

3. 最終CD11960(API Spec 5CT相当)をISO
中央事務局に送付し、DIS登録とメンバー投票
を依頼。

4. 2月17日第18回TC67/SC5諮問部会開催。3
月1日～2日のTC67/SC5/WG1(油井管)国際
会議(於パリ)で審議予定のツールジョイント
付ドリルパイプ(API Spec 5D+API Spec7相
当)の日本としての規格作成方針を審議。又今
年9月にドイツで予定している第3回TC67/
SC5国際会議の日程及び場所について意見を
まとめた。